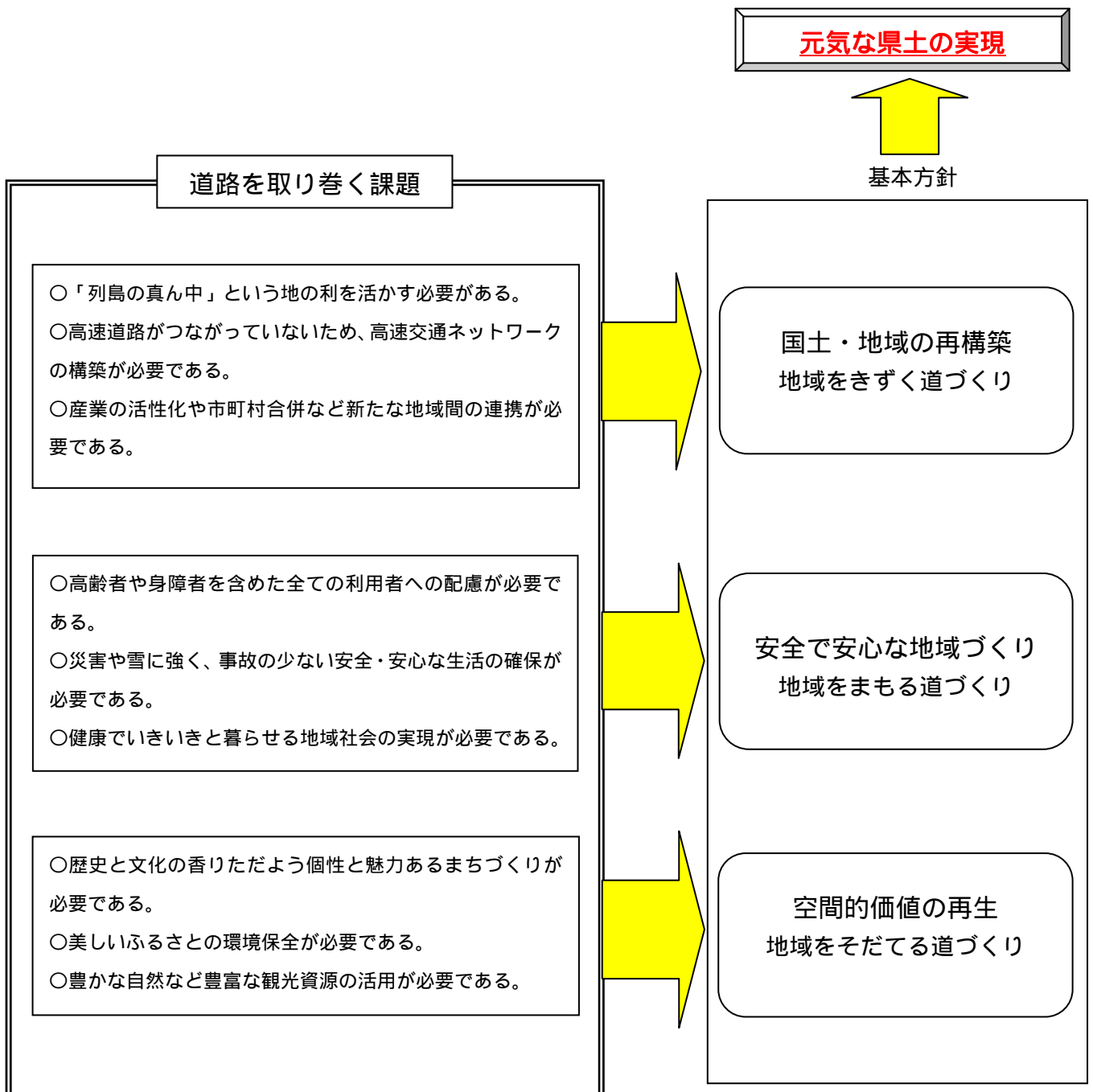


### 第3章 福井の道づくりの方針

#### (1) 道づくりの基本方針

道づくりの基本方針については、「福井元気宣言」「地方懇談会の提言」「道路の現状と課題」を踏まえ、「道路を取り巻く課題」として掲げ、「元気な県土」の実現をめざし、以下の3つの方針を設定しました。



## 国土、地域の再構築

### 地域をきづく道づくり

福井県は「列島のまん中」に位置するという地理的有利性を活かし、環日本海交流の拠点として近畿圏と中部圏、更には首都圏との結びつきを強化する必要があります。

また、近年の厳しい経済・社会情勢のもと、活力ある県土をきづくために、広域的な連携および市町村合併など県内における新たな地域間の連携により、活発な交流を促進し、観光や地場産業を活性化させることが緊急に求められています。

そのため、大都市圏との交流・連携を強化するとともに、県境を越えた地域連携および県内の地域間連携や地域開発を支援する道づくりを推進します。

## 安全で安心な地域づくり

### 地域をまもる道づくり

福井県では、高齢化が全国に比べて進展しており、また、過疎化が中山間地域を中心に依然として進行していることから、これらへの対応が求められています。

そのためには、生活の安心感やいつまでも住み続けたいという意識が持てるような地域社会の形成が不可欠であり、特に、災害や雪に強い安全な地域づくりが緊急の課題となっています。

そこで、県民が健康でいきいきと暮らせるよう、安全で快適かつ使いやすい道路空間を確保するとともに、中山間地域などの多自然型居住(都市的サービスとゆとりある居住空間、豊かな自然を併せて享受できる居住形態)を支援する道づくりを推進します。

## 空間的価値の再生

### 地域をそだてる道づくり

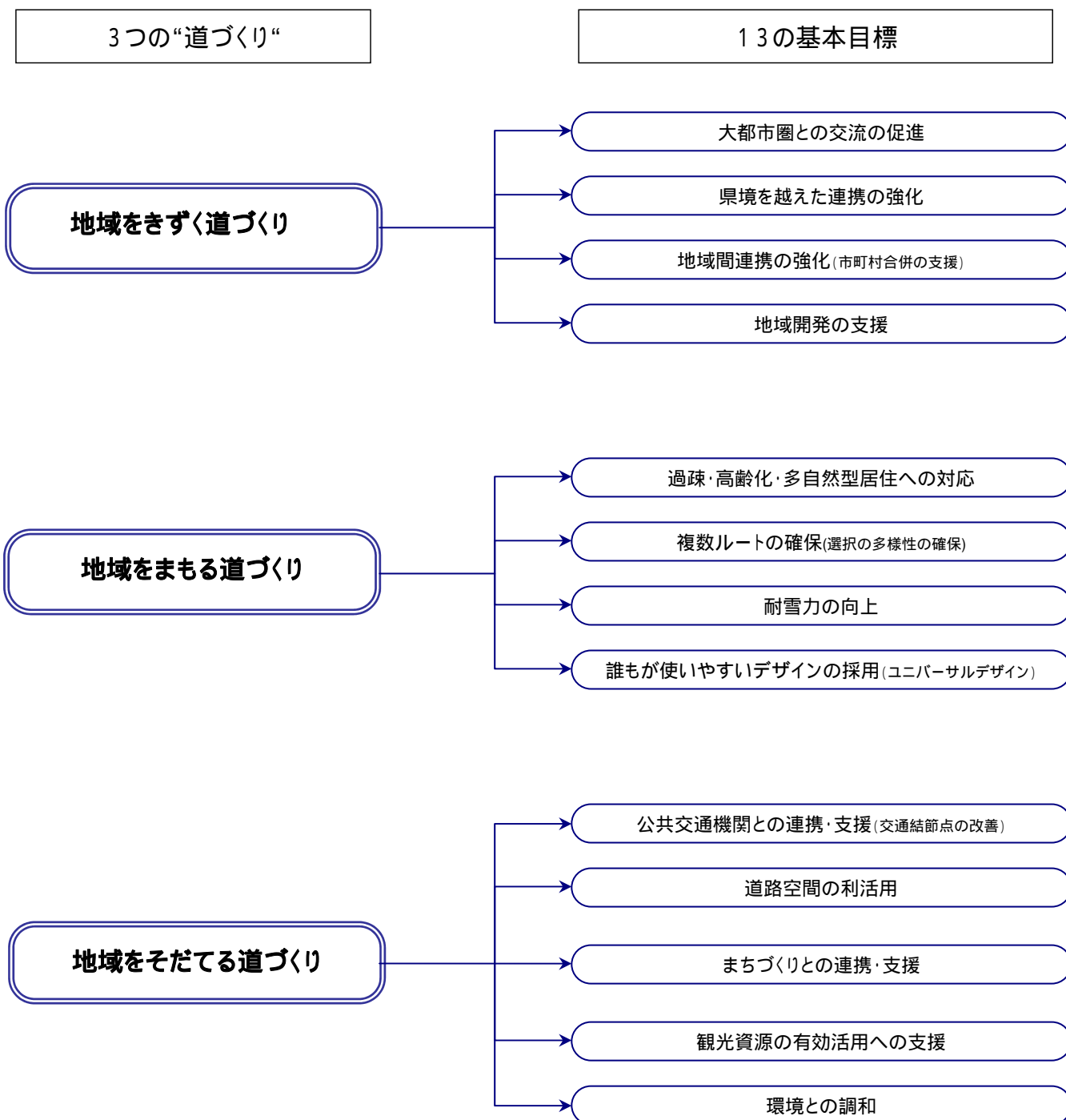
価値観の変化・多様化や新しいライフスタイルへの志向といった県民のニーズに対応して、ゆとりとやすらぎのある生活空間の創出など、生活の質の向上をめざした地域づくりが求められています。

そのため、道路空間の再生を図りその価値を見直すことにより、個性豊かでうるおいのある地域をそだてる必要があります。

したがって、自動車、公共交通、自転車、歩行者にとって便利でやすらぎのある道づくりをまちづくりと連携して推進します。また、豊かで美しい自然環境との調和を図り、伝統と歴史に培われた文化遺産を活かしながら、地域づくりを支援する道づくりを進めます。

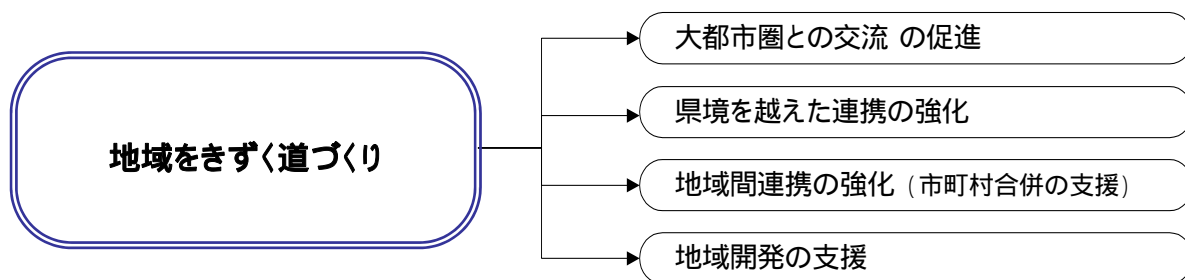
## (2) 3つの“道づくり”と13の基本目標

3つの“道づくり”の基本方針と、それを支える13の基本目標は、下図のように整理されます。



基本方針の概念

## 地域をきずく道づくり



### 大都市圏との交流の促進

日本海国土軸の骨格を形成し、大都市圏をはじめとする広域圏との人・物の交流を促進するため、高速性、信頼性、安定性の面で優れている高規格幹線道路およびこれと一体となり港湾など交流拠点を結ぶ地域高規格道路の整備を促進します。

### 県境を越えた連携の強化

連携による地域づくりに向けて、隣接府県との幅広い交流・連携を活発化するため、県境を越える道路をはじめとする広域幹線道路の整備を推進します。

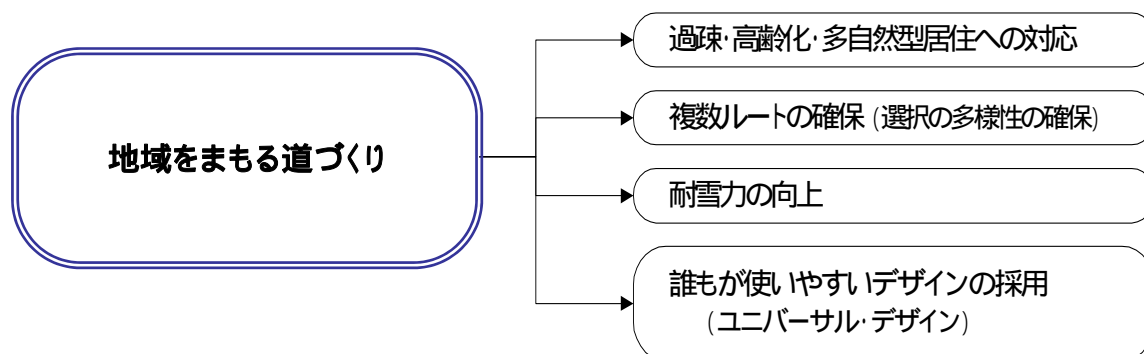
### 地域間連携の強化(市町村合併の支援)

効率的な行政運営や観光、産業などの地域振興による活力ある地域社会の形成に向けて、市町村合併をはじめとする広域的なまちづくりや、県内における新たな地域間の交流・連携を支援する道路整備を推進します。

### 地域開発の支援

創造性と活力ある産業の育成に向けて、地域開発や地域産業の活性化を支援する道路整備を推進します。

## 地域をまもる道づくり



### 過疎・高齢化・多自然型居住への対応

進展する過疎・高齢化に対応するため、誰もが安心して生活できるよう、災害や雪に強く、通勤、通学、通院、買い物など日常生活を便利で快適に営むことができるよう配慮した道路整備を進めます。

また、中山間地域における集落の保全と多自然型居住に対応して、いつまでも住み続けたいという意識が持てるようにするため、地域が有する資源を活かし、地域の魅力を高める地域づくりを支援する道路を整備します。

### 複数ルート確保 (選択の多様性の確保)

安全で安心して暮らせる地域づくりのため、災害時や渋滞時において代替路を選択できるような道路ネットワークの形成に努めます。

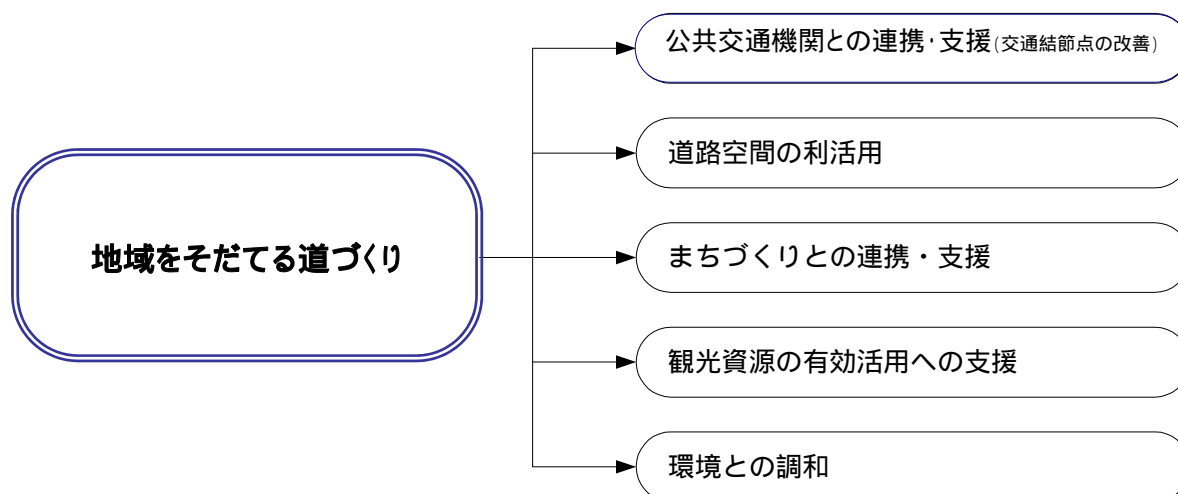
### 耐雪力の向上

雪に強い地域社会を実現するため、雪による渋滞や通行止めを極力回避できる道づくりを推進するとともに、除雪時の市民との協力体制や適切な排雪システムの確立をめざします。

### 誰もが使いやすいデザインの採用 (ユニバーサルデザイン)

誰もが安全で快適に暮らせる地域社会とするため、歩道の拡幅・バリアフリー化など、高齢者・身障者にもやさしく使いやすいデザインを採用した道路空間を整備します。

## 地域をそだてる道づくり



### 公共交通機関との連携・支援（交通結節点の改善）

CO<sub>2</sub>やNOxなどの排出量を減らし、燃料消費の少ない低環境負荷型の社会につながる公共交通機関の利用を促進するとともに、交通円滑化を図るため、交通結節点の改善や付近のアクセス道路の整備を進めます。

### 道路空間の利活用

価値観の変化・多様化や新しいライフスタイルへの志向といった人々のニーズに対応し、道路を誰にとっても便利で快適な空間とするため、自動車と公共交通、自転車、歩行者が共存できる道路整備を進めます。

### まちづくりとの連携・支援

まちづくり団体などと連携して、個性と魅力あるまちづくりを支援する道路整備を進めます。

### 観光資源の有効活用への支援

県内各地域の豊かな自然や伝統と歴史に培われた文化遺産などを有効活用し、交流人口の増加を図るため、これら豊富な観光資源を活かした魅力ある観光ルートの形成などを支援する道路整備を進めます。

### 環境との調和

福井県の有する豊かな自然環境、生態系との共生・調和を図るとともに、沿道環境の保全に配慮した道路整備を進めます。

### (3) 道づくりの重点施策

地域をきずく道づくり

大都市圏との交流の促進

国土や県土の骨格をなし、広域的な交流の促進や地域間の連携の強化を図るため、高規格幹線道路の「舞鶴若狭自動車道」と「中部縦貫自動車道」の整備を促進します。

高規格幹線道路と一体となり、県内の交通の円滑化、港湾など交流拠点へのアクセス性の向上などを図るため、地域高規格道路の整備を推進します。



県境を越えた連携の強化

近隣府県との交流を活発化し、交流人口の増加や日帰り圏の拡大を図るため、県境を越える道路の交通不能区間や未改良区間を整備します。

- ・ 国道 417 号 (冠山峠道路・福井県～岐阜県)



## 地域間連携の強化（市町村合併の支援）

県内の交通の円滑化、福井市・鯖江市・武生市を中心とした連携強化などを図るため、地域高規格道路の「福井港丸岡インター連絡道路」、「福井外環状道路」、「丹南西縦貫道路」、「福井加賀道路」の整備を推進します。

市町村合併による行政サービスの向上や行政運営の効率化を支援するため、合併する市町村間での地形的な制約の解消や、拠点施設を連絡する道路を整備します。

県内の各地域の均衡ある発展を促し、住民の定住志向を支援できるよう、「福井のみち30分圏構想」の実現に向け道路網を整備します。



都市間連携の強化（地域高規格道路）



市町村合併の支援（南条郡の例）

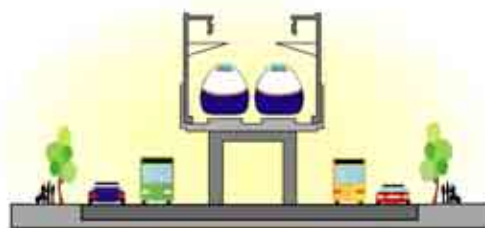
## 地域開発の支援

工業団地、商業施設など新しい産業の創出基盤となるプロジェクトや地域の活性化を支援する道路を整備します。

- 北陸新幹線や土地区画整理などと一体となった道路整備を行います。

### 地域開発や地域産業の活性化を支援します。

例えば…… まちづくりと新幹線の一体的整備



福井市北部における整備イメージ  
(市場周辺土地区画整理)





## 地域をまもる道づくり

### 過疎・高齢化・多自然型居住への対応

地域の有する資源を活かした多自然型居住をめざし、中山間地域の集落と都市との交流を促進する道路整備を進めます。

緊急時における迅速な移動を可能とするため、救急医療施設を中心とした道路網の整備を進め、消防・救急等緊急車両の到着・搬送時間の短縮を図るとともに、幅員が狭い箇所についてはこれらの車両が通行可能な幅員を確保します。

災害が発生しやすい箇所について調査、管理、監視に努め、緊急性の高い道路の防災対策を推進します。



緊急車両の迅速な移動

### 複数ルート確保（選択の多様性の確保）

大雪・大雨など災害時や渋滞時において、県民の日常生活や経済活動に支障をきたさないよう代替路が確保できる道路整備を進めます。



大雪により通行が困難となった国道8号(平成13年1月)

## 耐雪力の向上

消雪施設、スノーシェッド、堆雪帯などを整備し、道路の耐雪力向上を図ります。

冬期における自動車、歩行者の円滑な交通を確保するため、適切な車道除雪や、行政と住民の協力体制による歩道除雪を推進します。

路面監視カメラなどの情報収集システムを整備することにより、気象状況、路面状況を迅速に把握し、道路情報板や道路交通情報通信システム(VICS)などを利用して、情報提供のサービス向上を図ります。

### 雪に強い道づくりを推進します。

例えば…… 冬期の交通確保のため、雪崩防止や消雪施設の整備を進めるとともに情報提供サービス等を行います。



無散水消雪(福岡市)

道路に埋設したパイプに地下水などを通して雪を融かします。



雪みち情報ネットふくい

道路利用者へ冬期の道路情報を伝えるため、県のホームページ「雪みち情報ネットふくい」を充実します。

## 誰もが使いやすいデザインの採用(ユニバーサルデザイン)

高齢者や身障者にも安全で快適に利用できるよう、ユニバーサルデザインを採用し、歩道と車道間の段差解消、点字ブロックの整備、歩道の広幅員化など、バリアフリー化を推進します。

### 高齢者や身障者にもやさしく使いやすい道路空間をつくります



アップルロード(福岡市)

歩道の拡幅や段差の解消を行うとともに、自動車交通を抑制します。



道路のバリアフリー化

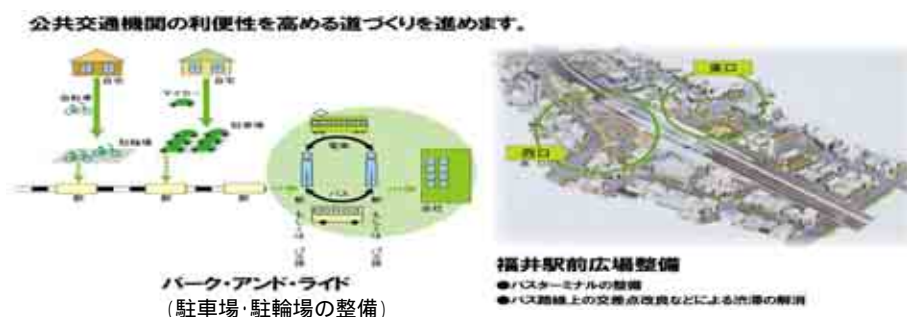
## 地域をそだてる道づくり

### 公共交通機関との連携・支援（交通結節点の改善）

福井駅周辺において、鉄道による市街地の分断を解消し東西一体となった都市形成を図るため、鉄道の連続立体交差化や土地区画整理により、県都の玄関口にふさわしい都心づくりを進めます。

交通の結節点となる駅を中心に、アクセス道路の整備や交通機関相互の乗継ぎの利便性を向上するため、駅前広場や駐車場・駐輪場を整備し、パークアンドライド\*<sup>1</sup>を支援します。

バスの走行性、定時性を向上させるため、バス路線にある渋滞ポイントの解消やバスベイ(バス停の停車スペース)を整備します。



### 道路空間の利活用

自転車、歩行者も安全に道路を利用できるように、交差点の改良や広幅員歩道を整備します。

うるおいのある景観を形成するため、電線類の地中化や道路の緑化、色彩・形状など景観に配慮した防護柵など道路施設の改善や美化を進めます。

自転車、歩行者が安心して通行できるコミュニティ道路や、公共交通との乗り継ぎの利便性を向上するためのトランジットモール\*<sup>2</sup>などを整備します。

道路を高度情報化に向けた情報通信基盤の一つと位置づけ、電話線や電線などを道路地下に埋設するC・C・BOX\*<sup>3</sup>や情報BOXを整備します。

自動車、公共交通、歩行者、自転車が共存できる道づくりを進めます。



\*<sup>1</sup> 自家用車や自転車などと、公共交通機関を組み合わせた環境負荷の低い移動手法の利用を促し、渋滞の軽減などを図るもの。

\*<sup>2</sup> 商店街などにおいて、自動車を排除し、路面電車・バス・トロリーバス等、路面を走行する公共交通機関を導入した歩行者用空間をいう。

\*<sup>3</sup> Community (or Communication, Compact) Cable Box。電力・通信用の簡易型共同溝。

## まちづくりとの連携・支援

都市の骨格となる放射・環状道路や円滑な都市内交通を支える幹線道路、また身近な生活環境を重視した道路の整備を推進します。

良好な市街地を形成するため、土地区画整理など面的整備を支援する道路を整備します。

事業規模や内容に応じて道づくり協議会を設け、地域住民の意見を取り入れて合意形成を図りながら道路整備を進めます。

まちづくり団体などと連携し、個性と魅力あるまちづくりを支援する道路整備を進めます。

まちづくり団体などと連携した道づくりを進めます。



住民とのワークショップ(大野市)



トランジットモールの実験(福井市)

## 観光資源の有効活用への支援

大都市をはじめとする広域圏からの観光客の利便性、周遊性を高めるため、魅力ある観光地間を結ぶ、広域的な観光道路網の形成を図ります。

地域の文化とふれあえる「交流拠点」として、また、観光関連の情報発信拠点として、ハイウェイオアシスや道の駅などを整備します。

歴史的・文化的価値を有する地域の魅力を高めるため、街並みの保存や復元に配慮した道路整備を進めます。

主要観光地へのアクセスを観光客に分かりやすくするため、道路標識・案内標識などの整備を進めます。

**豊かな観光資源を活かす道づくりを進めます。**



熊川宿(上中町)



新たな周遊ルートの確立

## 環境との調和

交通の円滑化や環境問題への対応のため、バイパス道路の整備による渋滞の解消と走行速度の向上や、交通需要マネジメント<sup>\*1</sup>(TDM)などによる交通量の抑制について取り組みます。

遮音壁の設置、低騒音舗装<sup>\*2</sup>などの道路騒音対策に加え、街路樹植栽などによる道路緑化を行い、沿道環境の保全に努めます。

循環型社会をめざし、建設副産物の発生の抑制と、自然環境に対する負荷を軽減するため、再生材の利用など、建設資源のリサイクルを積極的に推進します。

多様な動植物の生息・生育空間に配慮し、生態系全般との調和を図るため、道路法面の緑化を進めるとともに、自然地形の改変を少なくしたエコロード<sup>\*3</sup>などの道路整備を進めます。

### 自然環境、生態系との共生・調和を図った道づくりを行います。



本来の自然植生の復元をめざした緑化  
(国道162号・小浜市)

#### 自然と調和した道路整備



植樹によって野鳥の飛行コースを妨げない工夫を凝らした道づくり

#### 生態系との共生



#### 沿道環境の整備

\*1 自動車利用者の交通行動の変更(パーク・アンド・ライド等)により公共交通の利用を促すなど、都市または地域レベルで交通需要を調整・抑制し、道路交通における混雑を緩和する手法。Traffic Demand Management。

\*2 自動車が走行するとき、タイヤと路面の間に空気が入り騒音となることから、こうした空気を舗装の中に逃がして騒音を低減する舗装のこと。

\*3 エコロードとは、エコロジーとロードを組み合わせた和製英語であり、豊かな自然環境を保全するため、生態系にきめ細かく配慮した道路。